



東南アジアで植林・森林保全系

「森から世界を変えるプラットフォーム」

2025.12.17

Green Carbon株式会社

アジェンダ

01 Company Introduction

会社概要

02 Our reforestation work in Southeast Asia

東南アジアにおける当社の森林再生事業

03 Challenges for Reforestation as a project developer

森林再生プロジェクト開発者としての課題

04 Process of leveraging carbon credits and next steps

カーボンクレジットの活用プロセスと今後の対応

会社概要

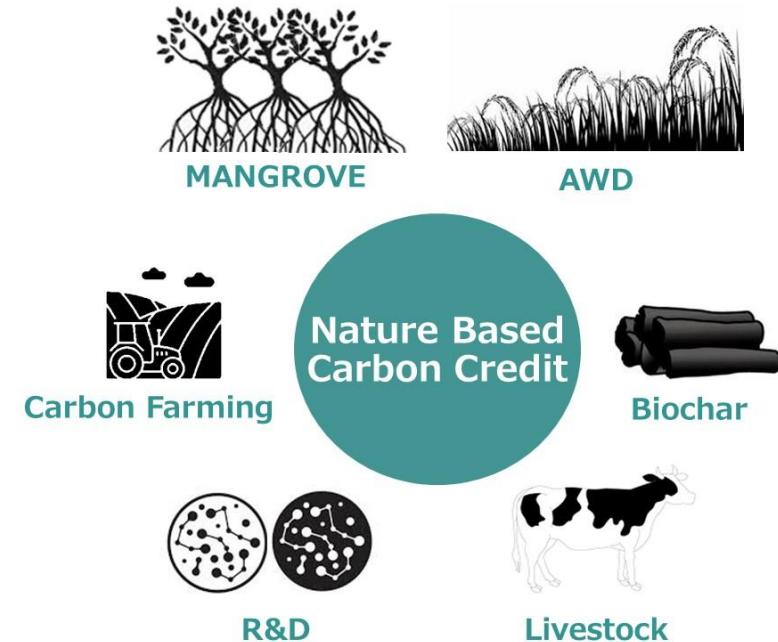
Green Carbon Inc.

■ Company Overview

Vision: Save the earth with the power of nature

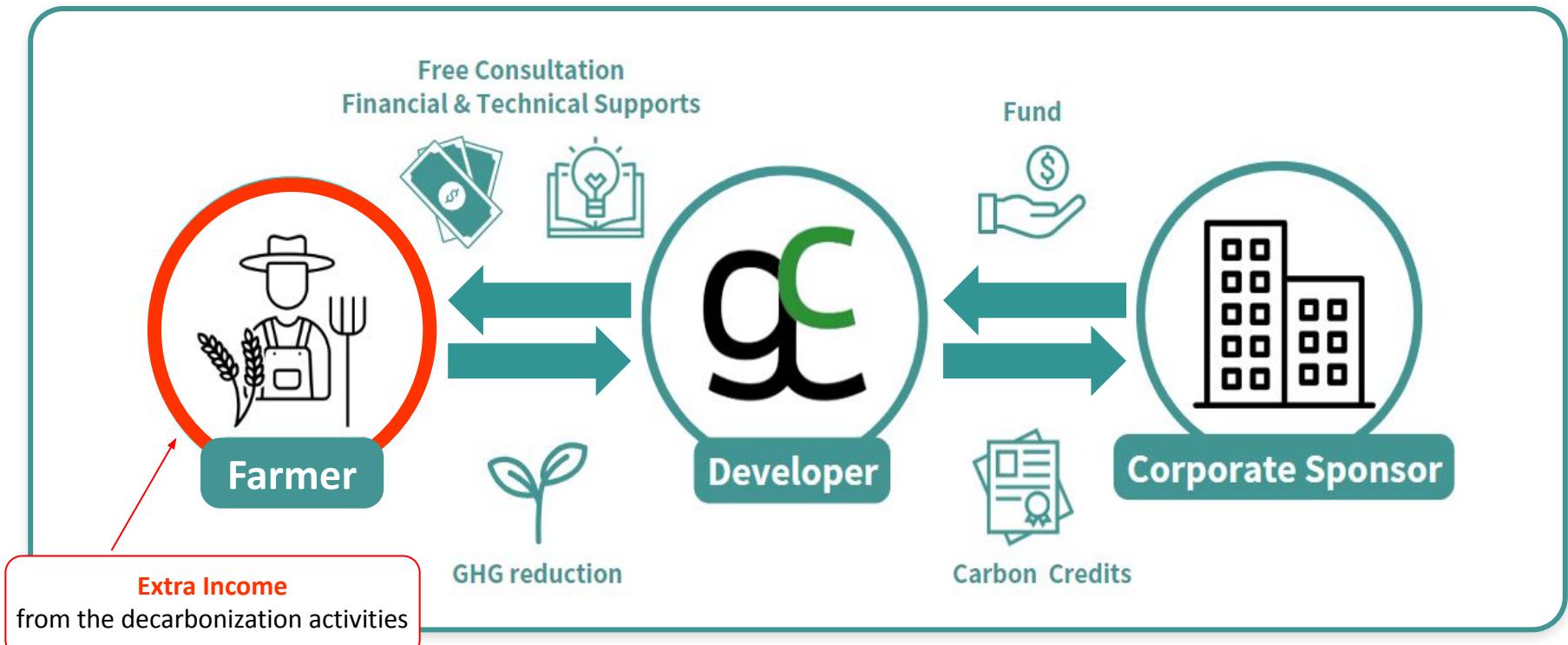


Establishment	December 2019
Head Office	Tokyo, Japan
Branch	Australia (R&D) Vietnam Philippines Thailand (Under preparation) Cambodia (Under preparation)
About Us	Green Carbon is a pioneering carbon credit development company that specializes in reducing carbon emissions by creating and trading nature-based carbon credits from agricultural sustainable projects. The trading mechanism promotes both climate action and economic profitability, supporting sustainability goals while empowering local communities.
Project (Contract base)	AWD: 700,000 ha Carbon Farming: 3M ha (on going) Reforestation: 10,000ha (under site survey) Biochar: 3,000t/y R&D: Bacteria for Methane gas reduction ESG consulting: Nature base project



Our Business Model

As a **project developer** of decarbonization projects, Green Carbon manages the entire process from project development to carbon credit delivery.



■ Green Carbon's Initiatives as a PJ Developer

Project registration

We are currently progressing with the project registration with Verra and Gold Standard, JCM, and more.



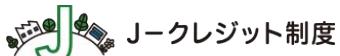
Collaboration with local Universities

Collaborating with local agricultural Universities to expand the project, aiming for a more efficient and beneficial initiative for the projects and the local farmers.



Wide-range activities in Japan

Utilizing the J Credit system, various credits are generated from nature based projects.



Collaboration with Specific Institutes

Through collaboration with JAXA, we aim to develop a monitoring system using satellite data to enhance credit reliability.



One stop platform service "Agreen"

We provide comprehensive support for farmers, from estimating their own profits to generating credits and profit returns.



<https://agreen.cloud/>

Leveraging Blockchain

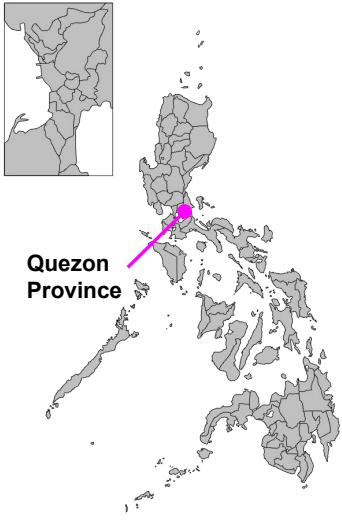
Using blockchain technology, we track credit transaction history and ensure credit transparency.



Our reforestation work in Southeast Asia

東南アジアにおける当社の森林再生事業

ケソン、フィリピンにおけるマングローブプロジェクト



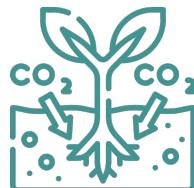
背景: Background

- マングローブの再生プロジェクト
- 規模・対象地域: 約1,000 ha
- 実施期間: 2026年から 60年間(クレジット発行は2027年見込み)
- 現状: フェーズ2(調査・計画策定)

プロジェクトの目的: Project Goal

劣化したマングローブ林と養殖生態系を回復させ、長期的な炭素固定と生物多様性の回復を図ると同時に、地域コミュニティに追加収入をもたらす(エコツーリズムの導入の可能性を含む)

主要目標: Key Objectives



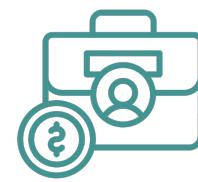
年間炭素固定量(換算)
1,208,665 tCO₂/ ha



在来種と生態系の回復および養殖業の維持



土壤及び水利条件の改善



地域雇用とアグロフォレストリーによる収入の提供



ケゾン、フィリピンにおけるマングローブプロジェクト

生息域の特定



マングローブ生息域と消失理由を確認

ポテンシャル・優先順位の特定



自治体レベルで消失地のポテンシャル(消失理由も含めて)を確認、優先順位を設定

選定基準の確立



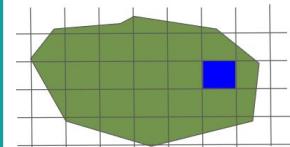
最適エリアとする選定の基準を確立

現地プロット調査



エリア選定と樹種の特定をするために、現地での調査を実施

選定結果・予算計画のアウトプット



基準によるスコアリングから、高適性エリアを選定
該当エリアの植林計画と
予算案を提示

《デスクトップ調査》

《植生調査》

《土壤調査》

《デスクトップ調査》

社会経済調査の目的について

リスク・ニーズ分析

プロジェクトへの参加や長期的な成功に影響を与える可能性のある、現地コミュニティ内のリスク・ニーズ・課題を特定すること。

社会経済的状況の記録

マングローブ再植林地域周辺のコミュニティにおける社会経済的状況とその変化を記録すること。

コミュニティの参画と包摂性の確保

地域コミュニティの組織体制を理解し、特に過小評価された小さなグループを含む、包摂的な参加を確保すること。

実施面における実現可能性の検証

プロジェクトの実施可能性を検証するために、種子資源の確認・育苗の確保・計画および植林サイトまでのアクセス条件の分析を行うこと。



社会経済調査の目的について

マングローブ事業の約 60%は、地域住民の参加が不十分であることを主因として失敗する。

そのため本プロジェクトでは、初期段階から地域住民の関与を中心に据える。地域のステークホルダーを早期に巻き込むことにより、現地活動の活性化を図り、持続可能かつ包摂的な成果の実現を目指す。

社会経済調査においては、フォーカスグループディスカッション(FGD)、キーパーソンインタビュー(KII)、ロジックツリー分析、ビジョニング演習を用いてステークホルダーの特定および優先課題の把握を行い、地域の将来像とプロジェクト目標の整合を図る。

フォーカスグループディスカッション(FGD)



鍵となる人物(キーパーソン)に集団で聞き取りを行い、意見や課題を共有して集団としての認識を明らかにする手法

ロジックツリー分析



課題の根本原因とその影響を明らかにする参加型の分析手法

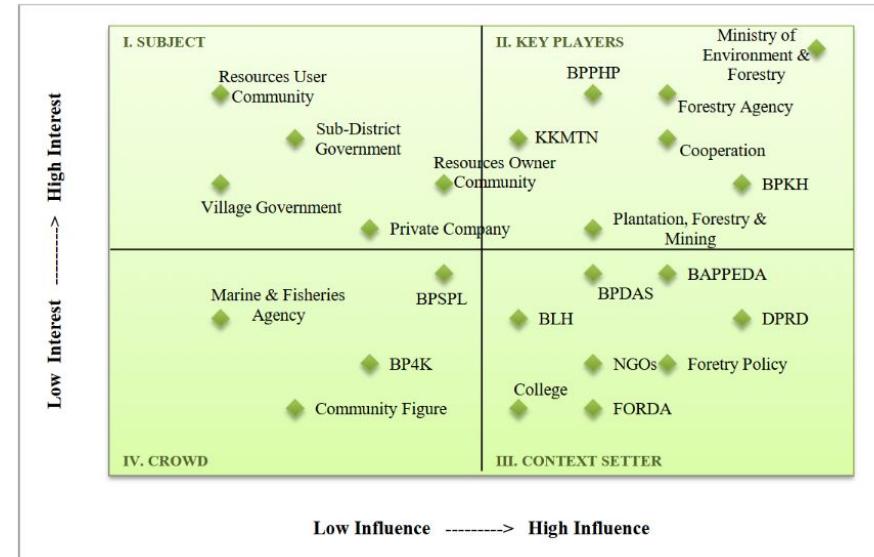
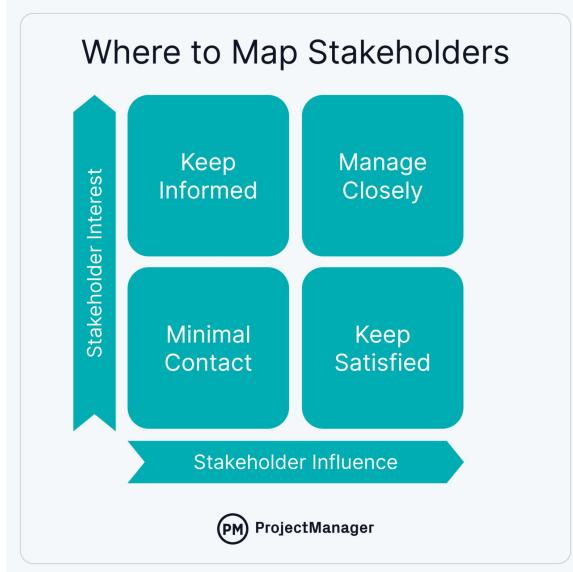
ビジョニング演習



コミュニティが将来の目標や理想像を描き、方向性を共有する手法

調査結果のイメージ

ケソン州のマングローブ植林計画では、ステークホルダーマッピングによって主要な利害関係者とその関心を把握し、地域に即した関与計画を策定・実施することで、プロジェクトへの信頼を構築し、主体性を高め、住民参加を確保することが可能となり、長期的な成功へと繋がる。



ピナツボにおける再植林プロジェクト



背景: Background

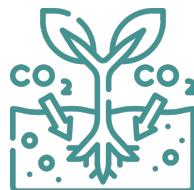
- 1991年のピナツボ火山噴火後の再生プロジェクト
- 規模・対象地域: 荒廃した火山斜面約16,000ha
- 実施期間: 2024年～2044年
- (クレジット発行は2027年見込み)
- 現状: フェーズ1完了(調査・計画策定)



プロジェクトの目的: Project Goal

劣化した森林生態系を回復させ、長期的な炭素固定と生物多様性の回復を図る。
先住民族も炭素クレジットの恩恵に組み込まれるシステムを構築し、彼らを巻き込む。

主要目標: Key Objectives



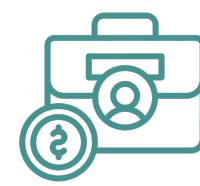
年間炭素固定量(換算)538,880 tCO₂e/year



1991噴火の影響を受けた在来種と生態系の回復



土壤及び水利条件の改善



地域雇用とアグロフォレストリーによる収入の提供

Challenges for Reforestation as a project developer

森林再生プロジェクト開発者としての課題

■ Main Challenges : サイト選定及び樹木選定

○選定において注目すべき観点

①環境適正

…再植林に適したエリアの選定

②推定カーボンクレジット創出量

…土壤及び植生両方の観点より、再植林後炭素固定量のポテンシャルが高いエリアを選定する必要がある。

③(天候を加味した)距離

…気候災害の多いフィリピンでは、アクセスが悪い場合、安定した管理・監視が困難となる。



→様々な選定基準を超えるエリアを選定することは難しい

■ Main Challenges : 地元政府からの許可

異なる機関間での制度調整の必要性

…漁業・水産資源局(BFAR)と環境・天然資源省(DENR)の間で、マングローブ林および養殖に関する明確な制度的調整が必要

既存の養殖池(Fishpond)の取扱い

…エリア内の養殖地(フィッシュポンドリース契約(FLA)区域)をマングローブへ全面転換することは、現時点では広く受け入れられていない

…養殖とマングローブを組み合わせるアプローチは存在するが、厳密な空間分離を前提とした場合にのみ許可される

→高い早期調整の重要性

制度調整、及び土地利用に関する許認可取得および実装スケジュールに遅延が生じる可能性がある



Process of leveraging carbon credits and next steps

カーボンクレジットの活用プロセスと今後の対応

■ Process of carbon credit registration



内陸部の森林再生



マングローブ再植林



ISOMETRIC



■ Process of carbon credit registration



内陸部の森林再生



マングローブ再植林

【Green Carbonのプロジェクト】

…国際的な気候メカニズムと連携している。
…多くのプロジェクトがクレジット発行に自主基準
(Verra、ゴールドスタンダード)を採用

【一部の開発者(例: クアムット)】

…REDD+/CCB基準を満たしている。

【インドネシア】

国内市場を国際基準(Verra/ゴールドスタンダードとの相互承認協定)に積極的に整合させている。

【フィリピン】

先住民土地(CADT)の法的枠組み内で実施されることが多く、買い手へ高品質なクレジット供給を目指す。

JCM関連森林プロジェクトは確認されなかったものの、日本の二国間JCMメカニズムが技術・土地プロジェクト向けに存在することである。

パリ協定目標の観点では、これらの取り組みは炭素吸収源の強化と適応策を通じ、各国のNDC達成を支援する。



Green CarbonによるdMRVイノベーションの活用

Add value

Traceable Evidence

&

Visualization



Satellite



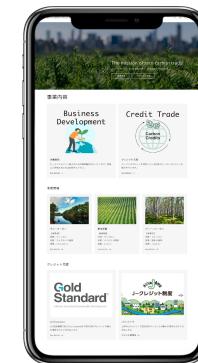
Monitoring tool



Drone



Data base



Mobile App



+



Hazuki Kato
Business Development
Manager



Alyssa Yap
Survey and Validation
Manager